

訳26 ちようどそのとき、白い鳥で、
口ばしと脚とが赤い、鳴ほどの
大きさである鳥が、水の上で遊
びながら魚を食べている。

訳27 京では見かけない鳥なので、居
合わせた人はだれも見知らない。
渡し守に尋ねたところ、「これ
が都鳥だ。」と言うのを聞いて、

訳28 渡し守に尋ねたところ、「これ
が都鳥だ。」と言ふのを聞いて、
訳29 名(な)にし負(お)はば
(都鳥という)名を

背負つて いるなら

いざ言(こと)問(と)はむ
さあ尋ねよう、

都鳥(みやこどり)

都鳥

わが思ふ人は
私が恋しく思う人は
ありやなしやと
無事かどうかと

訳30 と詠んだので、舟の中の人はそ
ろつて泣いてしまつた。

問一 都鳥を見かけて渡し守に尋ね
たのはいつか?

ア 舟に乗る前 イ 舟に乗つた後

訳29名(な)にし負(お)はば

(都鳥という)名を

背負つて いるなら

いざ言(こと)問(と)はむ

さあ尋ねよう、

都鳥(みやこどり)

都鳥

わが思ふ人は

私が恋しく思う人は

ありやなしやと

無事かどうかと

問二

「都鳥」という名を背負つてい
るなら」と「さあ尋ねよう」
の間に入る言葉は次のどれか。

ア恋愛には詳しいだろうから
イ都のことには詳しいだろうから
ウ私たちの都を思う気持ちがわかる
だろうから

問三

この歌の中の言葉をもとにつけられた橋の名は?

ア業平橋

イ言問橋

ウ吾妻橋

問四

この話の初めに、「男が自分自身を必要のない者と思い込んで、『京には住むまい。』と思つて旅に出た」ことが書いてあるが、「唐衣：」「駿河なる：」「名に：」の歌をふまえると次のどちらの可能性が高いと言えるか。

ア京が嫌になつて旅に出た。
イ京にいられなくなつて旅に出た。

問五 次の三つの歌を比較して言えることは？

唐衣： 都には妻がおり、この旅には感じることが多い。
駿河： 私への思いが薄れたのか、夢に妻が出てこない。
名に： 都鳥よ、妻が無事かどうか教えてくれ。

ア妻への思いに変化はない。
イ妻への思いが後になるほど強まつていている。

ウ妻への思いが後になるほど弱まつていている。

このは空白ページです